

第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日時	平成29年10月2日(月)午後3時～午後5時45分
開催場所	都筑区役所5階 特別会議室
出席者	<p>【委員】 間瀬勝一委員長、村田輝雄副委員長、恵志美奈子委員、金子進委員、篠原慎一委員、坪池栄子委員、中村雅子委員、林田育美委員、三ツ山一志委員、皆川健一委員、横手美枝子委員(11名中11名、委員は五十音順)</p> <p>【事務局】 都筑区長、都筑区副区長、都筑区区政推進課長、文化観光局文化振興課長、株式会社地域計画研究所 ほか関係職員</p>
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者3名)
議題	1 第2回委員会会議録の確認について 2 第2回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について 3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申(たたき台)に関する意見交換 4 区民文化センターニュース 第3号の発行について
決定事項	本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、答申(案)を作成し、次回委員会にて示す。
議事	<p>開会</p> <p>(間瀬委員長) それでは、定刻となりましたので、ただいまより「第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始めさせていただきます。</p> <p>9月10日に、2回目のアイデアミーティングがありました。ご見学された皆様、お疲れ様でした。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いします。</p> <p>(企画調整係長)「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第6条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と定められております。本日の出席委員数は、現在定数11名のうち10名でございます。篠原委員は遅れて出席される予定です。よって、出席委員数は半数以上ですので、本会が成立していることを報告します。なお、事前にお渡しさせていただいた席次及び資料で変更のあった資料につきまして、皆様のお手元にお配りしておりますので、差し替えをお願いします。また、本会議については「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」第31条に基づき、原則公開と定められております。本日は傍聴人が3名いらっしゃっています。</p> <p>(間瀬委員長) 条例に基づき本委員会が成立していることが確認できました。</p> <p>それでは、これより議事に入ります。まず、第2回委員会会議録の確認</p>

について事務局より説明をお願いします。

1 第2回委員会会議録の確認について

(企画調整係長) 資料2をご覧ください。事務局において第2回の会議録をまとめさせていただきます。恐れ入りますが、修正がございましたら本日事務局までお申し付けください。なお、本会議録につきましては確定後、前回配付しました会議資料と併せてホームページ等において公開しますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

(間瀬委員長) では、確認をしていただき、本日の会議の終了までに事務局に申し出てください。それでは次に、9月10日に開催された、第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について、事務局から説明をお願いします。

2 第2回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について

(地域計画研究所) 資料3について説明

(間瀬委員長) アイデアミーティングで出されたアイデアや意見について、説明いただきました。これに対するご意見がありましたらお願いします。

(各委員) 意見なし

(間瀬委員長) 後ほど何か思い付かれましたら、そのときにおっしゃってください。では、続きまして前回の議論に基づいて事務局が答申のたたき台を作成してきていますので、それに沿って進めていきたいと思えます。まずは、都筑区の区民文化センターのコンセプトと施設の運営・管理に関する部分について30分程度議論し、皆さんにそれぞれ1回以上はご発言いただきたいと思えます。その後、休憩を挟んでから、施設構成について1時間程度議論します。今回の議論をもとに事務局にて修正していただき、答申の案として、最終回の委員会に臨みたいと思えます。では、はじめに、事務局から答申のたたき台について、説明をお願いします。

3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申(たたき台)に関する

意見交換

(区政推進課長) 資料5について説明

(全体の構成について/区民文化センターのミッション、ミッションの実現に向けて重要な方針について 等)

ミッションの実現に向けて重要な方針では、委員の皆様のご意見から「施設を柔軟に使っていく姿勢を取り込んでいく」ということが大事なのではないかということを感じまして書かせていただきました。

文化事業の提供・展開のところについては、第2回委員会ではいくつかの柱を提示させていただきましたが、今あえて特徴をつける必要はないのではないかというご意見がありました。区民の皆様が使われていく中

で、基本的役割の中から、都筑にとって特徴的な取組が出てくるのではないかというように考えまして、現時点では区民文化センターの役割として定められている6つの基本的役割を書かせていただいております。

(間瀬委員長) いま説明のありました、資料5の8・9ページの「区民文化センターのミッション」と「ミッションの実現に向けて重要な役割」について議論をしたいと思います。

(村田副委員長) 先ほどアイデアミーティングの報告がありました。皆さん、みなきたウォーク側にエントランスを設けてアプローチする形がいいと言っている。そのように答申していくのか。あの12,000㎡中でどのようにしてエントランスを設けたらいいか、キャパは3,000㎡でどういうものにするのか、そこが漠然としている。アイデアミーティングの意見の中でも取り入れられるもの、取り入れられないものと色々あると思いますが、果たして答申としてうまくマッチングしていくかどうか。これを全部入れていくとなると、限られた3,000㎡というスペースの中にコンパクトに納まるのかどうか、少し心配しているところです。

(三ツ山委員) 市民の方が参加して、それぞれの想いをたくさん出されている。それをどこでどうやって整理するのか。整理をしてしまうと、がっかりする市民の方もいらっしゃるでしょう。こういう中で、「この部屋はこれしか使えない、というものではない」ということを考えてみます。つまり、一つの部屋が「こういう使い方もできるだろう」ということについて考えます。「多様性」という言い方をしていますが、やさしく言うと、「その部屋をどのように使うかというところの柔らかさ」。いずれにしても、場所は区切らなくてはいけない。その区切られた場所は、用途が出てくることもあるでしょうが、そこに多分この都筑の区民文化センターの特徴が出てくるかなと思います。もしかしたら、用途が定まっていない茫洋とした部屋が、使う人間たちの机の出し方とか壁の置き方によって凜とするかもしれない。最初から凜とするのではなくて、ある程度茫洋としているのですけれど、照明など、そこに後付するものによって、何かが訴えられるような、そういう施設づくりもあると思います。用途を聞きながら、それに応えて場をつくっていくという意味で、この施設の運営者は、やはり専門的な経験、知識がないと、それをできないだろうなと思って聞いていました。

(横手委員) 私も同じように考えました。最初に林田さんが言われた「都筑区らしい」というのは、アイデアミーティングで色々な意見が出て、それを全部取り込むのは面積も金額も無理だと思いますけれど、フレキシブルに動かせる状態にしていけばいいのかと思います。そして、やはりみなきたウォークからの動線というイメージが私もありました。他区の区民文化センターを見たときに、併設している商業施設と区民文化センターがまったく別の建物のように感じたところがあって、区民文化センターは一体どこにあるのだろう、どこから入るのだろうと思いました。商業施

設から区民文化センターの方に行くのに外に1回出るというのではなく、都筑区の象徴的なあの敷地に、3,000㎡という数字がもうあるのだけれど、デベロッパーが来て、どういう設計士さんが来るのか分からないけれど、イメージとして、文化芸術の拠点である区民文化センターだけではなくて、そのデベロッパーがつくる施設全体が一体となって「ここに文化センターがある」「芸術文化の都筑区の拠点がここにある」という、全体的にそういう雰囲気が醸し出せるような大きなものができたらいいなと思っています。エントランスについても、客の動線もありますけれど、商業施設なのか、何が建つか分かりませんが、区民文化センターと一体となった入り口があって、区民文化センターに入る動線がワクワク感にあふれ、気分が文化的に高揚していくように、全体的な建物のイメージも、文化的な拠点になるものをつくってくださるように業者さんをお願いをしたいなと思います。駐車場が別の場合も、駐車場で車を降りて、どこに行ったらいいのだろうと探すのではなく、駐車場からその施設に行く動線が分かりやすいように。駐車場代金の問題もあると思いますが、利用する施設により駐車場を分けるのかもしれませんが、商業施設がもしできるのだとしたら、区民文化センターに来た人が帰りにお買い物をするれば、駐車場が無料になるとか、そういう全体的に一体感のあるものになるようにつくっていただければいいと思いました。

(皆川委員)

入り口の話が出ていました。隣の歴史博物館、みなきたウォークの向こう側にあるほかの施設との関係をつけることなど、他にも色々な情報が出されていますが、これをやはり全部取り入れるわけにはいかない。ですからここに書かれているような多様に対応できる柔軟性。中の部屋をどんな風にするかとともに、これもやはり一つのテーマだと思います。やはり、みなきたウォーク。よく見て来たのですが、地下鉄の高架下に保育園だとか町内会館ができていたりして、なかなかうまく行けないので、やはり歴史博物館の業務用駐車場がある一番後ろの方で施設につながるのかと思ったところです。たまたま歴史博物館の前の道路から線路の方に階段、段差があるのですが、そこをスロープなどにすれば、歴史博物館にそのまま広場から行けるのです。その関係でやはり向こう側に入り口をつくれるといいと思います。広い長い土地ですがどんな風にできるか、やはりエントランスは大切で、これが区民文化センターかというエントランスが欲しいなとは思いますが、どうなるか想像はつかないのですが、エントランスへどう行くようになるのか、できれば外から入り口の位置が書いてあって分かりやすく、1階から区民文化センターがすぐあるようなエントランスができれば一番いい。そして、多様性に応じて使えるような工夫をした建物、皆さんの要望が多いので、いいものができればと思っています。今まで区民文化センターを見てきましたが、建物の中にあると分かりにくかったです。区民文化センターに来て、さっと分かるようにしていただければと思っています。

(林田委員) この方針の冒頭にあたる区民文化センターのミッション、そしてミッションの実現に向けて重要な方針に書き込むのはこのようになるだろうと思っています。ただ、これまでのアイデアミーティングなどの記録を見ますと、さまざまな要望があるのですが、「都筑区らしさ」の大きな観点は、運営に関わりたいという想いを持っている区民がいるということだと考えています。私自身も施設の立ち上げから運営管理に携わっておりまして、その観点で言うならば、施設運営・管理の項目が、今回答申を作成する上でとても重要な部分になると思います。どんなに素晴らしい管理ができたとしても、どのように運営していくか、そこがなければいい事業にはなりません。それを考えると、ここの2行でいいのだろうか。ただ次に「施設運営・管理面での配慮事項」と少し細かく項目立てがされているので、このあと考えていくのですが、9ページまでを考えるのであればこの一文で事足りるのかどうかという感じがしました。つまり区民が参加するということは、おそらく運営に携わるのであれば共同事業体をつくるということになるのではないかと思うわけです。当然専門家の方に関わっていただかなければならないと思いますけれども、共同事業体の例では杉田劇場もそうだと思うのですが、NPO 法人とチーム杉劇という、そのようなかたちでの運営が考えられるのかどうか、いずれにしてもこの答申のどこかに、区民に関わる余地を明記した方がいいのではないかと考えています。今の議論はこの9ページまでということなので、後ほどまたお話します。

(間瀬委員長) 施設運営管理について、もう少し書き込んだ方がいいのではないかと
いうご意見ですね。

(中村委員) 前回欠席してしまいました。ご意見の記録を読ませていただきました。色々な方が、区民文化センターをよいものにとご意見を出されているのですが、制約条件が見えていない中で、色々盛り込みたいことが出ています。このたくさんの意見を得た後に収束が難しいのかなと思います。前提で3,000㎡以内ということのを伺っているのですが、これも少し広げられないかというご意見も出ていて、面積を広げることが可能なのか、私自身分からないできています。最初から制約条件だけ言ってしまうと夢も何もなくなくなってしまうと思うのですが、もう少し収束したかたちでのご議論もいただけると良いと思っています。ハード面の方なのですが、皆さんもおっしゃっていたような柔軟性のある施設ということで、何でもできる機能も求められ、一方で建てる時点でビルトインしていかないといけない専門的な技術的制約もあると思うので、その中でどこまで可能性を持たせ、自由度の高いままにしておき、どこまでは最初につくってしまうのかを明確にしないと考えているだけになると思います。運営管理の部分、ソフト面ではその書き込みで、私もここはもう少しイメージ的に書いた方がいいと思います。まちの設計のときに、緑道そのものは道幅など狭いですが、協定を結んで周りの緑を取り込むことで、見た感じとして広々として緑のある空間をつくってきています。イベントなどに使うというようなこともありま

す。今回もいくつか意見が上がってきていますが、みなきたウォークと少し一体感を持たせる演出をしていくという、沿道の個々の施設と連携したこととして、こういうことができないかということを含めたいと思います。

(坪池委員) 前は欠席してしまいました。次号の雑誌「地域創造」のテーマが「新たな居場所・まちの文化交流施設」というものになっているのですが、たくさんの方が暮らしている生活の場所に、それも商業施設の中にあるということで、皆さんの居場所となるような計画が必要かと思っています。そのためには、自分たちが理想とするまちに貢献してくれるようなデベロッパーをどうやってパートナーに選ぶのかということがとても重要なことになるのではないのでしょうか。「まちライブラリ」というみんながつくる図書館運動が注目されています。ぜひこうした事例を参考にして、区民の居場所になる施設を目指していただければと思います。それから施設の立地を考えると、センター北駅とセンター南駅、区役所のところまで、もう少し大きな範囲で、人の流れや居場所づくりを考えることも必要かと感じました。今日はセンター南駅を降りてこちらに歩いて来ましたが、コンサートのできる屋外の階段状のひろばで階段のところに、ベビーカーを持ったお母さんたちがたくさん座って、食べたり飲んだりしていました。今日は雨が降ってなくて良かったなあと思いながら見ていたのですが、こうした親子の居場所になるような公共スペースのあり方も一緒に考えられるといいのではないかと思います。こうした親子を対象とした、時間消費型事業に力を入れているデベロッパーがパートナーになるといいのではないのでしょうか。こうした「まちなか文化施設」として考える場合、皆さんがどんな暮らし方をしたいのかという前提がないと、新しい施設のあり方も考えられないと思います。

(金子委員) 8ページ、9ページに関してはこれでいいのではないかなと思います。あと施設運営や施設構成については後ほど議論が出てくるのだと思います。そこで意見を述べたいと思っています。

(恵志委員) 改めてこれを「答申」として考えてみました。つまり、私たちが市長から選ばれて、区民意見を取りまとめた上で、こういう施設だったらいいのではないかと取りまとめることだと思うのですが、まず気になるのが、8ページのところで目指すことというのはいいのですが、例えば「提供します」というような言い方が、その提供する中身としてはいいのですが、われわれ委員会が、どこかに提案するということには「こういう施設だといいいのではないですか」という提案であるべきものなのだと理解しているのですが、そのときにこの答申だと「提供します」とか「つくります」とか、あたかも私たちが主体になって、提供したり、きっかけをつくるというような表現が、まず答申のかたちとして、中身の話ではなくて、ちょっと気になります。今の話を聞いて思ったのですが、ここに書いてある出来上がったコンセプトを基に、デベロッパーの人たちを

募集してかつこれを基にした形で運営者を募集していくということになっていくと思うのですが、そのときにこのメッセージがどちらに向いているのか、若干ぼんやりしているという気がしています。書きたいこととか中身については議論されてきていることが書かれています。それを伝えるときの伝え方。まとめ方が、先ほど 10 ページにあるものとコンセプトも含めてなのですが、運営者に対する期待としてはこういうものがないのではないかとということと、デベロッパーに対してはこういう施設を考えたのでこの形がいいと思うというような表わし方をちょっとクリアにした答申にしたほうがいいのではないかなと、今これだけ見るとそう思います。

(篠原委員)

8 ページと 9 ページにある案については、概ね妥当だと思っています。書き方云々は今ご意見がありましたしもうちょっと考えてもいいのかなと思いますけれど、そもそもこの区民文化センターのミッションとは、こうあるべきで、そのミッションを実現するための基本方針。1 回目に申し上げたかもしれませんが、難しいのは多目的が無目的になりがちだということです。どこまで多様にできるかという、つまり本当の意味の多目的ホールをつくりあげる、多目的施設をつくり上げる意気込みとして、絶対譲れないものと、ここまではあった方がいいもの、何でもかんでもあった方がいいのではなく、あまりにも使用頻度が少ない物はカットする方がいいというような観点での、優先順位付けが大切だなと思っています。そんな風に考えていきますと今、皆さんのお話を伺って特に坪池さんのお話にはとても触発される所が多くて、これから新たな施設をつくるにあたっては、こういう程度の物をつくってくればあとはお任せしますというのではなく、こういう施設を中核において、できる限り連携可能な全体像をまとめたいところを、それでどこまで応募が上がるかということもあるかも知れませんが、最初はそういう意気込みで臨むぐらいのことがあってもいいのかなと思います。入り口がどの方向でということも含めて、色々な考え方があります。区民文化センターと違う施設が同居する。だから入り口が別というやり方も今まではあったでしょう。先ほどの話などを総合すると、できる限りひとつの施設の中で総合施設の目的の中の一つに区民文化センターもあるという言い方だと、入り口は共有のものがあってどこかで分かれている、あるいは共有するスペースがたくさんあって、区民文化センターもある意味商業施設の中に開放されている部分もあり、その逆も真というようなことがある意味では理想論なのではないかと。やはり最終的に何か新しい区民文化センター、せつかく独立できる敷地を持っている区民文化センターですから、それについてはそういう投げ方が大切なのかなと今ご意見を伺っていて強く思いました。

(間瀬委員長)

前回のアイデアミーティングを見学させていただいて感じたことで、また今日のご議論を聞いて思ったのですが、この施設は専門性と多様性の折り合いをどこで付けるかということなのかなという気がします。ハードの

面でもソフトの面でも同じように、どの辺を着地点にするかということでしょうか。このあとハードの方を議論しますが、私の経験でいくとやはり商業施設と一緒にというのは大変いいことなのですが、クラシックコンサートをするときに商業施設の雑踏が入ってくる、においが入ってくるというのは困る。ですが、普段の発表会とか皆さんがお使いになるときは、逆にそのごった煮的な状況がプラスになる。これは両方あると思います。どんな折り合いをつけ、落としどころをどうするのかということ。そして、今回の開発全体が文化拠点となるような開発をと思いますが、本答申も当然与件として出すことになると思います。どのようにアピールをして我々の議論している内容を開発の中で生かしてもらえるのか、行政当局にぜひ託したいと思います。それから運営を区民参加でなるべくやりたいという、これもアイデアミーティングでもご意見が多かったと思います。これは否定できることではなく十分可能性があることです。杉田劇場はやっていまずけれどNPOと一緒に財団が運営しております。区民の皆さんが奮闘なされれば十分可能だと思います。これからの新しい区民文化センターという考え方を議論いただいて、まだもう少し詰めないといけないかなと思います。

それではここで休憩を入れまして、後半は10ページ以降について報告をいただきながら議論をしたいと思います。時間としては、17時半頃までを目途にしていますので、休憩は16時15分までの10分間とします。

休憩（10分間）

(間瀬委員長) それでは、皆様お戻りですので、会議を再開します。後半は少し長丁場になりますが、17時25分頃までを目安に、区民文化センターの施設運営、施設構成、施設のスペック・仕様などについて議論したいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

(区政推進課長) 資料5について説明

(施設運営・管理面での配慮事項／施設構成／その他、敷地、建物全体において配慮いただきたい事項 等)

(間瀬委員長) 舞台の形状や広さについて説明

(間瀬委員長) それでは、主に10ページ以降の内容についてご意見をいただきます。

(篠原委員) 12ページの関係模式図は非常に分かりやすい。ただ、これがそのまま平面におさまるというわけではなく、エントランスから、普通はエントランスホールとは言いませんけれども、そこから色々ご意見があった中で、ギャラリーと隣接させて有機的に結合させたという意味合いでここに並べている。ホールに続くエントランスから入ると同じ階にリハーサル室があるといいと描かれているけれども、それが実施設計上にどういうふうに表現されるかは別の話だろうと思います。概念的に近い部分をどう

実現させるかというところで、このようにつくってくださいというものではないことは認識すべきポイントの一つだろうと思います。その上で、一般の区民の方のご意見で、みなきたウォークとエントランスの関係が非常に大きく扱われていて一つのポイントだろうと思っています。先ほどもお話されていましたが、今みなきたウォークはすべて裏側動線のようなイメージがあって、表通りに面して商業施設が並んでいる。そちらが表だとしたら今度の施設はどういう成り立ちになるのか、例えばメインのエントランスをどこに設けるかという問題もありますけれども、必ずみなきたウォーク側からも入れるようにというのが例えば譲れない線なのか、それともみなきたウォークにメインのエントランスをつくることなのか、というところが先程来申し上げている優先順位の付け方なのだろうなど。施設全体が文化施設としての色彩を帯びることという意味で、この区民文化センターを、厄介者をつくらなくてはここを使えないというのではなくて、それを中心にすえた、といえ言過ぎかもしれませんが、商業側が有効に区民文化センターを取り込むような観点での設計を望みたいと思います。では、どこがエントランスでどこがホールかというあたりは、デベロッパーの腕の見せ所で、期待したいところになります。我々としてはこういうのがどうしてもほしい、できればこの近くにほしいというような要件だけを出して行って、こう並べてくださいではないということを確認したうえで、しかもみなきたウォークを無視しないでほしいということ、それをメインで使うのかサブで使うのか、望ましい方式で何が一番望ましいのかということ、を少し明確に議論させていただければいいのかなという風に感じています。

(恵志委員) 建物全体の中での位置づけというのが、どうやってほしいのか、例えばみなきたウォーク側がいいという言い方よりは、施設全体の中で区民文化ホールがどういう位置づけであってほしいというような記述が必要。今ここだと区民文化センター部分だけが取り上げられているかたちなので、中はこれでいいのでしょうけれども、これにプラスアルファをするような文言が必要なのかなと思います。次に、例えば 3LDK のマンションと一言言ってもそれぞれ全然違うわけで、それがどう違うかというようなことを。今の状態は、ただ 3LDK のマンションをつくってくださいといっているような状態だと思うのです。「より開放的に」というようなことは書いているのですけれども、機能として必要としているところと、その空間全体のイメージの提案というのが若干混じり合っているので、イメージとしてどういう風にしてほしいということと、施設としてどういうものがほしいということは別にする。この庁舎もすごく区の施設という感じで、1階にカフェなどがあって、地域の団体の方が運営されていてとても素敵だと思うのですが、場所自体はうまく外に開いている感じではない。例えば、ここの施設でカフェをつくりましょうというときに、デベロッパーはとりあえず了解して作りましたというような状態だと思うのです。この答申で言っているカフェが、要件だけが盛り込ま

れるようなかたちではなく、空間をデザインしていくための提案を求めているというのを、もう少し熱を帯びた感じで伝えてもいいのかなと、どうしたらいいのかは分からないのですが。

(金子委員) 今このタウンセンターは飽和状態で、テナントの入れ替えが盛んです。商業施設から商業施設へタウンセンター内で移動している。そういうことから言うと、区民文化センターと商業施設を事業者が提案されるときは、そういう状況を把握しているので当然いま無いものを持ってくる。それが健康とかスポーツとかという形になっていくのだろうと思う。街づくり委員会の委員長をしているので、通り抜け通路というのは、ただ真ん中に道をつくるのではなく、例えばみなきたウォーク側に、公開空地的なかたちでそちらに持ってこられることもできるので、そういう意味からすると、皆さんがアイデアミーティングで話されたようにその通路をうまく使って、みなきたウォークで文化ゾーンにつながるように。優先順位ということでいくと、道路を含む通路をみなきたウォーク側に持ってこられる。センター北とセンター南の間にあるわけですから、通路をみなきたウォーク側に持ってこられるれば、両方に行ける。それをよしとするのであれば、委員会から出す必要があるかと思う。管理者の関係ですが、NPO 云々とありますけれど、当面は指定管理者制度使いながら、時間をかけながら、区民の活動を NPO のように組織化していけばいいと、そういう方向性を出しておけばいい。最初からすぐにそうやるわけではなくそういう方向性だけでいいのかなと思う。

(坪池委員) ホールの形式について確認ですが、シューボックス形式ですか？

(間瀬委員長) 音楽利用を中心に考えて。300 席のホールで、間口に対して客席が扇のように開いているところがあります。客席と舞台が真っ直ぐつながるような意味です。

(坪池委員) シューボックス形式という勘違いされるので、修正された方がいいと思います。後は、まちなかの文化施設として、開発、まちづくりと一体型で考えてほしいということを明記していただきたいということと、あまり施設の細かな仕様を提言を入れられても困るのではという感じがします。基本的には 12 ページのイメージ図ぐらいでいいと思います。その中で提案があるとすると、情報コーナーというもので活用されている情報コーナーを見たことがありません。チラシをばさっと置いてあるみたいな感じで、それで情報を集めて発信していると考えるのはいかがなものかと思います。情報コーナーという書き方をするくらいだったら、区民活動室と明記されて、区民活動室の中で情報を発信したい人の拠点になればと思います。今よく議論になるのが、事務室なのですが、考えなくてはいけないのが、オープンスペースの事務室にするか、クローズドな事務室にするかがひとつの選択で、オープンだとやっている側は丸見え状態になりますけれど、そういう形で持ちたいならば、提案の中に含ませておいた方がいいかなと思っています。ギャラリーイメージでいくと、一番問題なのは高さで

す。私が知っている例で言うと、エントランスのところの天井を高くしておいて、高さのある作品のインスタレーションを含めて、お祭りのときなどにも使っています。いずれにしても、ハード条件としては、皆さんが望まれる最低限のレベルを入れておくにとどめた方がいいのではないのでしょうか。あと、連携という言葉が大変都合よく出てきますが、連携の関係づくりは大変難しいので、安易に使わない方がいいのではないかと思います。委員会として体制づくりのところまで踏み込んだ議論が必要。

(中村委員) 私はハードに関してはあまりわからないのですが、先ほど説明のあった舞台の8間かける8間というこの大きさが無いとお芝居というのは成り立たないものなのか、スタンダードなサイズというものがあるのですか。今までのご経験から出てきているものだと思いますが、私には経験がありませんので。区民文化センターの周辺について、通常この辺の商業施設は先ほどお話しがあったように、どの辺に頻繁に人が通るのか、車で来る人ではなく来ていただいた人に道が分かるとか、大通りに面して商業施設が全部並んでいるのですが、それはただ広いところから人が来る、車で来るということであればそちら向きに表側があるのでしょうか。この施設の性格が、外から人をたくさん集めるというよりは、地域の方々が見に行く、というより楽しみに来る、発信者としての活動をしながら、ということであれば、必ずしも外を向いていなくてもいいのではないのでしょうか。むしろ駅から歩いてとか、他の文化施設を回遊してとかいうのであれば、そちらから行きやすいかたちにすればいいと思いました。みなきたウォーク自体も道筋そのものは殺風景で、歩いてきて楽しい道ではないのですが、ここを本当にエリア全体でどのように活性化していくかということになるのではと思います。歩いていけるというそうした観点が大事なことなのでと思っています。一つ一つのホールや練習室などが求める仕様については、先ほど言われていたように区民の意見を多くいただいたものであると思うのですが、優先順位というお話もありましたが、予算的な面でも伺っていないのですが、作戦的にもどれを重視するのか優先順位をつけられるといいと思います。

(林田委員) 最初に意見を言わせていただいたように私自身も一つ施設を運営しているのでその観点でお話すると、10ページにあるように安全安心もありますが、これは、言うはやすしでそんなに容易にできることではないと思っています。特に連携というのはそんなに簡単にできるものではなく、おそらく指定管理者が選定されて、そこにどのような形で区民が参加できるのか、本当に最初の選定するときから共同事業体というかたちができるのか、それともやりながら移行していくのか、方法はあると思うのですが、やはりこの共同事業体というのも実際にはそんなに簡単ではない。役割を明確に分けられるのかどうかという問題もありますし、究極にはどういう人がここに関わってくるのか、バランス感覚が求められると思います。また多くの方々が求めておられる情報コーナーについて、市民活動に

つながるような有効利用ができるよう、そこに関わる人材も重要になってくると思います。ハードに関しては私も全く門外漢でして、実際に別紙に書いていただいているこの内容が3,000㎡の中にかっちりとおさまるかどうか、これはデベロッパーの腕の見せ所だと、どういう風に見せてくださるのか、建て方も含めデベロッパーの力による物だと思いますが、はたしてこれが入るのだろうかというところも実のところわかりません。センター北駅の近くにあるノースポートモールはエリアでは最大規模の商業施設なのですが、このたび大規模リニューアルをいたしまして、9月15日にオープンしております。商業者は東急不動産です。このエリアは人で混雑しているものですから、お客様の取り合いだと思います。その近くにこの用地があるとなると、先程金子委員も言われましたけれど、同じような商業施設ではここでは難しいと思いますので、全く違う観点で新しい形のコンセプトで、闘うことになるのではと想像しております。また、センター北駅周辺は車での来館が非常に多いので、やはり商圈は結構広いと思われ、また都筑インターが近いこともあわせると都筑区内だけのことではない。対抗するところはたまプラーザあるいははららぼーとなどありますけれど、そういうところとつながっていくようなエリアだと思います。その中でここに人が集まる工夫を考えると、今までにないようなことを考えるしかない、区民文化センターの土地で今までにない可能性を考えていかないと人が集まらないのではないかと思います。

(横手委員) 意見が出尽くしたと思いますが、質問です。これは商業施設ではなくて、住宅は全く入り込む余地は無いのですか。

(区政推進課長) 商業施設かどうかはまだ分かりませんが、住宅はつくれないことになっています。業務施設、学校は可能です。

(横手委員) オフィスも入ることができると聞いて少し安心しました。やはり私のイメージの中に、文化施設であるならば、商業施設、業務施設にもある程度の質を求めていきたいと思います。そういう意味ではこれからきっとデベロッパーとやり取りしていくのを頑張っていたいただきたいなと思います。これだけ多くの人、アイデアミーティングにも出てきてくれた区民の方々の意見がかなり吸い上げられているこのたたき台を、苦勞してつくっていただいたと感心して読みました。なので、赤字になってまでやらない商売であるデベロッパーに、これがどの程度、どんな施設ならいいのかという点まで含めて私たちが言うことができるのかなと思います。やっぱり本当に作っていただいたこれが、アイデアミーティングの意見がかなり吸い上げられたものをちゃんと分かってくれるデベロッパーと交渉してください。

(間瀬委員長) どのような店舗が入るかが問題です。

(横手委員) 私自身も車でここに来ました。なので、駐車場との動線、表通りから車で来た方がすぐに分かる「ここが都筑の文化の中心」なのだ分かる、そういうデザインをお願いしたいなと思います。

(三ツ山委員) 用事のある人だけしか来ないのでは区民文化センターとは名乗れないのではないかと思います。12 ページに関して言うと、コンサートや出し物を観に行くのはホールへ、練習する目的があると練習室、そうすると別にここを借りていなくても来ていいよというスペースとしては、エントランスとギャラリーかと。そういう意味では、多分、民間が開発するという意味からすれば、やはり多くの人の流れを取り込めないと困るでしょうし、ですから多くの人が集えるということが大事でしょう。盛んにみなきたウォークで市民活動のイベントをやっているというお話も伺うにあたっては、歴史博物館はトイレを貸してくれるのかなとか、人の流れがつかれるという意味のイメージからすると、お母さんたちが子ども連れて立ち寄れるとか、車椅子を押しながらでもちょっと寄っていきこうかのようなそういう空間が作れるか。その意味でいくと専門施設のようにしてこの施設で企画したものを見に行く、参加しに行くという形態と違って、ここは区の文化施設ですから当然区民の方々のつくられた物がギャラリーを飾り、それが、人が動くきっかけにならなければいけないと思っています。先ほど、情報の話がありましたけれど、ここに来て歴史博物館に行こうということが、ポスター1枚でも、今歴史博物館でこんなことやっていますという、近くのところにポスターを貼ってもらうという関係性だけでもなかなか施設間連携としては難しかったりするのですよ。そういう関係をつくっても担当が替わったら忘れてしまう。おたがいのことをお互い様にしましょうねというような仕組みを担当者と構築して、施設長にもちゃんと行って業務にしてくれといっても担当者が変わるとなくなってしまったりする。だからといってしないわけではない。こつこつしなくてはいけないのですけれど。最近は電車の中にモニターもあって、今そういう意味では単なる紙媒体ではなくて映像で事業を紹介したりすることが非常にコンパクトにできるようになった。そうすると多分情報コーナーというところの中にはチラシとかポスターとかあるのですが、やはりモニターで連携しているところの情報でのやり取りをしていくと、動く情報として非常に多く伝達できたりする。ですから区民センターは使いたい人が活動できるこの意味でどういう施設にしていこうかという話ですね。用事が無くても立ち寄れるというようなことで、エントランスの空間が、ホールへ続く豪華なエントランスではなくて、多様なことができる。他の区文を見ているとやはりホール中心ですからエントランスはホールの扉の前の空間という感じでもったいないと思います。必要なことができる機能を持つということ。それと、施設が運営されて動いてくると、ここでこのようなことがやりたいというアイデアが市民の中から出てくることに応える。具体的な機能を持った場所で、豪華とかたちよりは、お祭りにも使いたいというような話の来る、区民の施設というのは閉じるのではなくていくらでも開いていける、玄関の扉も固定にしないでぱっと開くような発想とかそういうようなことを考えて聞いていました。きっと図面が出てきてから

の話があると思う。大体の輪郭線が出てきてからの話が次には大事になってくる。12 ページの図面をみてバックヤードがないと思いました。バックヤードというのは、備品をしまっておくところで狭いと本当に不便ですから。多機能とか区民の情報に応じながら対応していくと資材は多くなります。それを機能的にしまっておく場所というのは必要です。

(村田副委員長) 色々な意見が出ていますが、車社会の中でどうなのかと。センター北、南あたりで10,000台ぐらいの駐車場のスペースが全体ではあるのですが、やはり区民文化センターは電車で来る方あるいは車の方がほとんどで、車で来る場合どのくらい駐車場が必要なのか、10台50台限りではだめだと思います。ここの12,000㎡で建物のハードなものはホールだとかエントランスだとか大体のキャパで決まってくるの。あそこを構造的に見ると、今横に長い敷地で線路側から平面で、区役所通りと法面がかなりある。そこを造成して全部平にすると後ろの道路から下がる。線路側は平かもしれないが、こちらから行くと2m、3mの法面がある。ではこの図面で行くと搬出口はどうするのかと。やはり後ろの方の道路から必要なのか。あのGLを下げなくては対応できないし、後ろの方の道路を搬入口にするのかと。みなさんが来てくれる区民文化センターだというのが、辛口で言うと、やはりそこに関わっているグループだとか関係する人がほとんどだと思うのです。それには付帯したホールに来なくてもギャラリーだとかそういうスペースでみんなが家族連れで来ることのできるようなところをつくる。12,000㎡を建物の駐車場スペースをつくると、前が空くとおもうので、公園なり、家族連れがちょっとした休憩ができるように。こういった形でデベロッパーが建てるか全部分かっていないが、都筑区の中でも公園にオブジェをつくって楽しみましょうといっている人もいるのでオブジェも置いて、誰でも使えるちょっとした催し物もできるようなスペース。中だけではなくて外でもできるようなスペースがあるとホールに来なくてもギャラリーだけでなくもそこに来ていただいて集客。この間の緑区の中でもやはり激戦区だと言っていたが都筑区も激戦区だと思う。区民文化センターがあるから人が来るかという、今言ったようにそこに何かがやりたい、発表したいという人は来ますが。回りをしてみるとあざみ野の方にギャラリーがあったり、専門的な色々なギャラリーがあったりしているわけだから、線路一本で町田もあるし、区民文化センターだから人が来るかというとなかなか限られた人だけで、21万人の区民の半数の人が来るかという、本当に温度差があります。今は取り合いながらやっていますけれど、その中で文化というのはなかなかみんな関心が無くても来てほしいというのはそういうスペースがないと集客するには難しいのかなと思っています。造成するにしても、ホールを使う以外の人が集客してくれるのにはやはり何か区民センターに行かなくてもあそこで何かできるといった、行きたいねとなるものが必要。歴史博物館とジョイントしても興味ある人は行くでしょうが、あそこで人の流れを生むにはもっと魅力ある、

区民の人が、区外の人も行ってみたいなというような文化施設でないと。我々が答申をしてもデベロッパーも営業ですから、商業地域も個性がないと来ない。2年すると区民の方の趣向が変わり要望が変わってくるからテナントも変えていかななくてはいけない。5年、10年そこで定住しながら営業するかというとなかなかできない。入ってくるテナントも短期間の中で収支を決めなくてはいけないのでそのことも含めて難しい。区民文化センターも催しだけに参加する人だけではなくて、そこに行けば情報を収集でき、子どもから高齢者まで行けば楽しめる魅力ある区民文化センターでないと。バリアフリーというけれど今センター南からみなきたウォークの方に行くには階段になる。車椅子の人は車で行って停められるスペースがあればそちらから行く。今の状況ではあそこを歩いてセンター北まで行く人は少なく車で行こうというのがほとんどだと思います。そんなことも考慮しながらホールだけではなくて、ギャラリーとか含めて魅力ある区民文化センターにしていかないと、今までにない魅力ある区民文化センターにしたいがデベロッパーも営業ですからどんな形にしる飲み込んでいただいて理解していただけたところがどのくらい参加してくれるか。要望ばかりしてもそれでは建てないという事になるとこまる。金子さんがよく言っているように来てくれる業者さんもないと話が進まないことなので、ある意味では落としどころがあると思いますので、その辺も考慮しながら皆さんと議論していかないと絵に描いた餅だけになってしまう。

(間瀬委員長) 大変熱のこもったお話でした。言い残したことがありましたらペーパーで事務局に出してください。今伺っていて思ったことを2点ほど言います。1点目は、直近でいえば今度の開発の業者の選定ということが、かなり重要になるのかなということ。もう一つは、指定管理者を選定するということも一つの鍵になりそうということです。開発業者については具体的な情報が無いのでコメントできないのですが、指定管理者の場合、私見ですが、ここにいらっしゃるメンバーの何人かが指定管理者の選定委員をやる、市民要望などの議論をここまで重ねてきているわけですから、そういったところで担保をするのかと、私見として思っています。それから用事のない人も来てもらえるようなホール、劇場にしようということなのですが、私の経験ではビルの中に入っていると商店には区民文化センターのシャワー効果は確かにあります。ホールの利用者の方がスーパーだったり食堂だったり、かなりお金を落としてくださる。ホールが300人しか入らないわけで、アリーナのように何万と来れば効果はあるのですが、そのテナントさんが潤うほどにはならない。あと、区民文化センター単独ではなくて今回の開発全体の中の位置づけをきちんと押さえておかないといけない。それは私もそう思います。例えば具体例でお話しますと、みなが集まれるカフェがホールの中にあればいい、開発の中のすぐ近くのところにカフェがあってくると、こちらはロビーを広くできる。区民文化センターは限られた面積ですから、民間が外ででき得るものはなるべく外に

出してしまった方がいいのではないかと思います。私はもともと舞台の裏方ですので、何かが無い時にすぐいけるのはコンビニと100円ショップなのです。ホームセンターが一番良いのですが。全体の開発の中で、区民文化センターの中でどうしても持たなくてはいけないものとそうでないものがあり、それを割り振りして、デベロッパーがつくるもの、お茶を飲めるところなどは閉店時間と開店時間の調整で可能です。そのようなことを感じました。また、全体の開発の中でイベント利用の空間、そこは普段は子どもが遊んでいる空間、ホールの前のところから広い空間が何かに使えと、全体の賑わいがつくれるのかな、そんなことを感じました。時間も過ぎていますが、施設の詳しい仕様について、あまり皆さんからご意見が出てこなかったのも、何か気づかれた施設のスケールに関わるご意見があればください。最終的には、このくらいの「程度」が望ましいといった書き方を提示したいところです。広さが出てこない予算も出せないのも、その辺はぜひ出していただければと思います。

(篠原委員) 舞台の大きさですが、8間かける8間あると、いわゆるフルオーケストラが乗る大きさなのです。300席の観客に対しては、単純な言い方をするととても贅沢というか、舞台上を重視したつくりになっています。もしこれが実現できれば、これは一つの特色になるだろうと思います。これだけの器があると普通は600席とか1000席近いイメージです。それからギャラリーの天井高さは、この間見た緑区の区民文化センターのようにギャラリーとしてあるところは7m。6mくらいが最低必要で、おっしゃっていたのは、つくりようによってはメインエントランスを活用する、「多様な」のところにどう引っ掛けていくかというところがポイントになると思います。あと関係模式図は、これは図面ではないので、この表記にホールがあればそれにバックヤードがついているという認識で作られているのだらうと思いました。でもこれってある程度数字を入れないとデベロッパーのやりようが無いので、300席はわかるけれど、何間かける何間など、ほしい大きさを言わないと舞台の大きさが分からない。そう思います。

(村田副委員長) これはいつまでに決めるのか。4回目の委員会までに、答申として開発事業者にお願いすることを書く。フルオーケストラが乗るくらい舞台はキャパとのバランスはどうなのか。専門的には分からないが、300席には大きい舞台ということだが。

(篠原委員) 第九は客席も全部歌います。

(坪池委員) 舞台面が広ければ、舞台上に客席を設置することもできますし、一種のフリースペースに使えるので、舞台面が広いことは大変いいことだと思います。

(村田副委員長) 大きさというのは分かるけれども、どんな利用の仕方があるのか、こんなスペースがあるとこんなことができますというところが分からない。

(坪池委員) 多機能に使えるということを出し出すためには、この12ページの図にもう少し手を加えるといいのではないのでしょうか。今は、練習室とか会

議室とか、機能的な表記になっていますが、エントランスホールは「賑わいのあるエントランスホール」「オープンなエントランス」とか、「まちにつながっているエントランス」とか、それからギャラリーのところは「多機能ギャラリー」とか、用語をかなり練るといいと思います。リハーサル室は「上演もできる」「上演機能を持った」リハーサル室など、いろいろ工夫していただければ。この図では、利用者エリアと共有エリア、こういう軸をつくっていて、そこは素晴らしいと思います。そのところをもうちょっと言葉にして、うまく落とし込んでいくという作業が必要なのかなと思います。

(間瀬委員長) 大変分かりやすい。では、先ほどお話したように、施設の仕様についてはお持ち帰りになって、ご意見がありましたら今週中くらいに、事務局の方に伝えてください。それではこれで、本日の審議事項は全て終了させていただきます。最後に、区民文化センターニュース第3号の発行について、事務局から説明をお願いします。

4 区民文化センターニュース 第3号の発行について

(区政推進課長) 資料6をご覧ください。区民文化センターニュース第3号について、事務局で案を作成いたしました。おもて面は第2回委員会で意見交換をしていただきました内容を記載しております。全ての御発言ではなく恐縮ですが、皆様の御意見をまとめる形で記載させていただきました。続きまして、裏面をご覧ください。本日第3回委員会を開催したことと、今後のスケジュールについて記載し、下半分にレポートという形で、第2回 アイデアミーティングの開催報告を記載しております。この内容でよろしければ、発行の作業に移らせていただきたいと思いますと考えております。

それから本日お配りした資料の中で、先ほど説明をいたしませんでした資料4の説明をさせていただきます。

資料4について説明

(間瀬委員長) 記事の内容について、異議・ご質問等ございませんか。

(各委員) 異議なし

(間瀬委員長) では、ニュース第3号については、事務局説明のとおり、発行をお願いします。その他、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

5 事務連絡

(区政推進課長) 本日も大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。大幅に修正をしていかなければならないなと思っております。第4回委員会は、11月28日(火)午後3時より、本日と同じ都筑区役所5階特別会議室において開催させていただきますのでどうぞよろしく申し上げます。

これで事務局からの事務連絡を終了し、本日はこれにて閉会といたします。本日もどうもありがとうございました。

	閉会
資 料 ・ 特記事項	<p>1 資料</p> <p>資料1 第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第2回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録</p> <p>別紙1 区役所からの情報提供（当日使用パワーポイント）</p> <p>別紙2 当日配布資料、机上資料</p> <p>資料4 現在寄せられているアイデア等について</p> <p>資料5 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（たたき台）</p> <p>資料6 都筑区 区民文化センターニュース 第3号（案）</p> <p>2 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回第4回委員会は、平成29年11月28日（火）午後3時から5時半 場所は本日と同じく、都筑区役所5階 特別会議室